



黒島魂

「みがきあい(キラキラ)」

「ささえあい(ニコニコ)」

～しまごころ～

「わかいあい(ワクワク)」

ワールドカップに思うこと・・・

先日の授業参観そして保護者面談へのご協力、誠にありがとうございました。

さて、日本代表の決勝トーナメント進出で盛り上がったサッカーのワールドカップですが、ご覧になられましたか？私は、残念ながら、翌日のことを考えてしまい、テレビ観戦を1試合もせずに終わってしまいました。



それにしても、日本代表は凄かったですね。Jリーグが開幕したのが、1993年です。それ以前のサッカーは、それほど人気もなく（大学ラグビーの方が人気あり！！）、ワールドカップ出場など、遠い夢物語だったように思います。それから、いわゆる「ドーハの悲劇」を経て、7大会連続出場（これだけでも凄いことですよ！！）となった今回は、強豪ドイツ、スペインを破るという快挙を成し遂げ、グループリーグを突破したのです。選手はもちろん監督やコーチ、その他全てのスタッフの皆さんは、実に尊敬に値する仕事を成し遂げたと個人的に思いました。（監督とキャプテンが長崎県出身というのも何だか嬉しいですね。）

しかし、日本が成長から熟成の時期を迎え、人々の価値観は多様化し、「個」が重んじられる時代になった現代社会においては、そうはいかないようです。SNSの普及等により、発信力を強めた「個」の中には、他者の「失敗」や「間違い」を許すことができず、SNS上でベスト16に終わった日本代表に向かって、容赦のない厳しい言葉が、一定数投げかけられているようです。

これが、子供たちがいずれ巣立ち行く現代社会の現実の姿なのだと率直に思いました。おそらく、子供たちが、社会に出て関わる人々の多くは、思いやりと寛容の心を併せ持つ、温かみのある人々なのでしょう。しかし、そうではない人々と全く関わりなく生きていくことは、不可能であるという事実気づかされました。

では、この厳しい現代社会を生き抜くために、学校が子供たちにできることは何だろうか？と考えました。そして、それはやはり「**未来を切り開く力**」として、**授業をととして「確かな学力」を子供たちに身に付けさせること**であると決意を強くしました。同時に、それを支えるために「**心身のたくましさ**」の育成も必要であるとも考えました。



子供たちには、2学期の始業式で「間違えること」をお願いしました。「間違えること」は決して悪いことではなく、「間違えること」で得ることができる「気づき」が成長につながることを話しました。ただ、この「気づき」を得るためには、一定の時間がかかります。そして、個人差もあります。したがって、支援する我々教師に必要なのは「忍耐力」や「思いやり」、「寛容」の心です。そして、支援の仕方を工夫する「自主性」や「創造力」、「柔軟性」等も必要になってきます。そうなんです。子供たちに育成しようとしている力は、我々教師にも求められる力でもあるのです。本校の教職員は、これまでも、これからも子供たちとともに学びながら、子供たちの「**未来を切り開く力**」を育成し、将来どんな高い壁に直面しても、乗り越えることができる人材の育成をめざし邁進していきます。

12月23日（金）の終業式の日、子供たちを通じて、通知表をお渡しします。子供たちに、ねぎらいと励ましの言葉かけをいただきますと幸いです。

人間は何度やりそこなっても

「もういっぺん」の勇気を失わなければ、かならずものになる。

とにかく、考えてみることであり、くふうしてみることであり、

そして、やってみることであり、失敗すればやり直せばいい。

松下 幸之助

※松下電工株式会社（現在のパナソニック）創設者

表彰伝達の様子

12月6日（火）に実施した、表彰伝達の様子です。時間の都合上、前の号でお知らせした子供たち全員に渡すことができませんでした。残りの子供たちには、12月23日（金）の、終業式の前に渡す予定です。大変遅くなり、申し訳ございませんが、年明けの学校日より、その様子をお知らせできればと思っています。どうぞよろしくお願いします。



研究授業

教育公務員特例法第21条に「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない」とあります。

本校では、子供たちに、本号でお伝えしている力を授業で育成するために、全教員が自分自身の授業を公開しています。そして授業後、参観者と指導の在り方等について意見交換を行うことで授業力向上を図っています。我々教師も、学びの毎日です。

